



2007  
平成19年

12

誌面に掲載した記事・  
写真等の無断複製・転  
載等はお断りします。  
お問い合わせ・ご意見  
は狛江市市民協働課へ

発行 ● 狛江市市民協働課  
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5  
☎3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press  
〒201-0012 狛江市中和泉3-2-16  
プランツベルツ201  
☎3430-6617 FAX3430-6743  
Email=wacco@k-press.net

1955年ごろ



銀行町の派出所 世田谷通りに面した派出所前を行きみこし。警察官が交通整理をしている

# 狛江の安全・安心を守る 警察・消防



14人の消防隊 1962年  
狛江消防署が町の常備消防としてスタート。14人の町職員が火災に備えた

狛江の街の安全と安心を担っている警察署と消防署。狛江には戦前、銀行町（現・東和泉）など2カ所に駐在所があった。その後も人口増加などで和泉、中和泉、小覚、岩戸などに開設され、街で暮らしながら勤務する、いわゆる「駐在さん」が治安を守るとともに、街の相談役や仲裁役などを果たし交流を深めてきた。昭和52年に岩戸が派出所（交番）に転換したのを最後に、現在では調布署が管轄する交番が6カ所に設置され、街の安全に目を光らせている。

消防の業務は、かつては消防団が行っていたが、昭和

37年の死者7人を出した町内の病院の火事がきっかけとなって、町（当時）に消防署が開設された。しかし、市街化による都市型火災に対応するため、49年に東京消防庁に委託。和泉本町の本署に加え、小田急線南側の火災にも対応できるよう猪方に出張所が開設された。



町時代の狛江消防署

## 多摩川で拾った銀時計

銀行町の駐在所・派出所 ■ 荒井常治さん（80歳・東和泉）の話 生まれも育ちも銀行町ですが、昭和10年ごろ、このあたりは繁華街だったためか、狛江三叉路から品川道を小田急線方向に入つてすぐの所に駐在所がありました。小学校3年生ぐらの時、多摩川で釣りをして帰る夕方、水ぎわの砂利の上に四角い銀時計を拾って駐在所に届けました。戦前は、おまわりさんは「怖い人」でそれまでそばへ寄つたことなどなかったの



銀行町の派出所 1952年

お正月の晴れ着でおまわりさんと記念写真。派出所は子どもの遊び場だった

で、おっかなびっくりでした。当時、腕時計はすごい高級品で、親も驚きました。結局持ち主が

現れず、1年後に私のものになり、兵隊になった兄が戦地に持って行きましたが、兄は帰ってきましたが、あの時計がどうなったか覚えていません。この駐在所は昭和17年に岩戸に移転し、銀行町にはしばらく警察がなかったのですが、戦後になって狛江三叉路に派出所が地元の要望で誘致され、30年代半ばに世田谷通りが拡幅されるまでありました。民主化が盛んに言われた戦後は、戦前とは一変して、街の人もよく立ち寄り、子どもも遊びに行っていました。



狛江交番

2007年

狛江駅北口ロータリーにあるモダンな外観の狛江交番

## 家族ぐるみで父の手伝い

小覚駐在所 ■ 吉田芳彦さん（53歳・調布市）の話 父（銀治郎さん・大正1年生）の転勤で、小学1年生だった昭和35年9月に、松原通りが開通して新しくできた小覚駐在所（現・小覚交番）に引越してきました。私は4人兄弟の末っ子で、家の仕事はほとんど手伝いませんでしたが、兄や姉は、両親が留守の時に仕事を手伝っていました。当時、駐在所の周辺は人通りが少なく、街灯もなかったのですが、夜に裸で走り回る変質者を捕まえようと、大学生だった長兄が父と一緒に夜回りをしました。一度は捕まえたのですが、逃げられてしまったと残念がっていました。また、当

## 小覚駐在所



1960年

完成したての駐在所。写っているのは吉田さんの父・銀治郎さんと芳彦さん

時は女性警察官がいなかったためか、調布署で女性の犯罪者が捕まると、身体検査のために駐在所の奥さんたちに呼び出しがかりました。私の母も迎えにきたパトカーに乗って年何回か、出かけていきました。私は第二小学校（当時）に通っていましたが、毎朝、父が御台橋のところ立って交通整理をしており、そこであいさつをするのがすごく恥ずかしかったです。中学1年までそこに住んでいましたが、最後のころは父がパトカー勤務になったため、昼間は別のおまわりさんが来ていました。

## 街のサロンだった駐在所

岩戸駐在所 ■ 山本仁さん（55歳・座間市）の話 小学1年から中学2年（昭和33年～43年）まで岩戸駐在所（現・岩戸交番）に住んでました。父（忠市さん・大正10年生）と母（テル子さん）、兄の4人家族でした。駐在所は基本的に24時間勤務で、父がいない時は家族も仕事を手伝うことになっています。小金井の駐在所から転勤しましたが、岩戸は戦前の古い建物で、仕事をするとところと



町時代の消防署

1967年



東京消防庁狛江消防署 1974年4月

上の2枚は1967年建設のプレハブ消防署



狛江消防署猪方出張所 1974年5月



現在の消防署

2005年

## 町の消防署開設に苦勞

長谷川良二さん（72歳・和泉本町）の話 昭和37年の町内の病院の火災をきっかけに、これまで消防団しかなかったのですが、当時の町長がやはり常備消防が必要だと決断し、急きよ町に消防署をつくることになりました。その準備を、当時私が在籍していた総務がすることになりました。私は直接担当しませんでした。町の外から経験者を集めたり、かなり苦勞したようです。町の職員として14人を採用し、町役場の北西側にあった車庫を改造して消防署の建物を造り、発足にこぎつけました。手狭になったため、39年に市役所北東側に敷地を買って建物を建て、42年に移転しました。その後、市街化が進み、市の運営では限界があるということで、消防庁に委託することになりました。49年4月に開設するまで、建設する消防署の敷地の買収や事務処理などすごくたいへんでした。署員約50人で発足しましたが、市の職員だった人もそちらに採用されました。その年の9月に多摩川水害が起きたのですが、よそへの応援要請をはじめほとんど消防署が対応してくれて、移管してよかったと痛感しました。



1968年

狛江初の救急車

台所が土間で、かまどでした。駐在の仕事で一番多いのは「地理指導」という道案内です。私は第一小学校に通っていたし、多摩川や野川を遊び場にしていたので越してきてすぐ道を覚え、だれもないときにはよく教えました。次に多いのがトイレを借りに来る人。夫婦げんかの仲裁もよくありました。生まれたときから駐在所暮らしなので、当時は不思議にも思いませんでしたが、逃げる奥さんを刃物を持ったご主人が追っかけてくるなんて光景もときどき見ました。小学1、2年のころ、カギをなくした人の担当は体の小さい私でした。父に言われて、トイレの下の小さい窓や換気用の穴から入って玄関のカギをあけました。世田谷街道もまだ砂利道で、すぐわきを六郷用水が流れていました。道端に生えた草のため道路と用水の境目がわからず、人や車がよく落ちました。私しかい

なかった時、外を見ていたら、歩いていたらお年寄りがバスが通り過ぎた途端に見えなくなったので、すぐ近所のおとなを呼んで助けたこともあります。いまも交番には「昨日の事故」などの数字が書いてあります。毎朝、本署から連絡があるのですが、父が巡回や本署の朝礼へ出かけているときは、私や兄が電話で聞いて数字を書きました。仕事熱心だった両親は、街の人とすぐ親しくなり、夜はいろんな人が来て、お茶や、時には酒を飲んだりしてサロンみたいでした。うるさくて眠れなかったこともありますよ。一家団らんというのは、非番の時の映画見物の時だけでした。

写真提供・取材協力=山本仁、吉田芳彦、長谷川良二、荒井常治、飯田吉明、大関路恵、調布警察署、狛江消防署（順不同・敬称略）資料=『狛江消防30年のあゆみ』（狛江消防署）、『狛江町広報』（狛江市）